

安全上の配慮から作業は、経験のあるスタッフのみが実施します。
 実施後は装置内の触媒がオゾン进行回収し活性を低減させますので、
 短時間に室内に入ることができます。
 (※室内に入る前には、十分な換気と
 オゾン濃度測定が必要です。)



高濃度オゾン発生装置例

イオン化

プラズマイオン発生装置は、空気をイオン化します。イオン化により
 空気中の小粒子同士は結合し、沈降するため、空気から微細な
 塵が減少していきます。同時に装置内では寿命の短い励起状態の
 酸素分子が発生し、これが悪臭を直ちに分解します。また装置の
 調節により、微量のオゾン进行発生させることができ、悪臭を酸化分解
 することもできます。イオン化は、全ての臭気や素材に対して使用可
 能です。また居住空間でも使用可能です。



方法	メリット	デメリット
芳香剤噴霧	一番手軽で即効性	悪臭の原因は解決されない
リストアリング	人や動物が室内にいても使用可能。素材を損なわない	臭いが弱い場合にのみ有効
シーリング	急速かつ持続的な中和作用	素材に機能上の影響を及ぼすことがある
フィルター除去と吸着	微小な塵と気体を除去	ガスを取り除くことはできない
フォッグング	アクセスが難しい場所の処理が可能	人や動物が室内にいるときは使用できない
オゾン分解	非常に効果的、様々な臭いの原因に対応可能	人や動物が室内にいるときは使用できない
イオン化	人や動物が室内にいても使用可能。素材を損なわない	オゾン処理より長い時間を要する

お問い合わせ先：0120-123-677



リカバリープロ株式会社
 フリーダイヤル 0120-123-677(年中無休)

脱臭



リカバリープロ株式会社

汚染除去後も、火災、カビ等の悪臭の元となる多孔性の物質が残っている場合は、脱臭が必要です。脱臭にはさまざまな方法があります。実際どの脱臭方法が最適かは複数の要因に左右されるので専門家の判断が必要となります。

熱処理

臭気発生源を40～50℃に加熱するだけで効果的に脱臭できるケースもあり、加熱はその他の消臭方法と頻繁に併用されます。加熱により臭気源物質の蒸気圧が上昇し、臭気源はより深い層から追い出されます。火災により装置や物品などに付着した臭気は、加熱により短時間で除去できます。油が元となる悪臭の場合にも、加熱は非常に効果的です。

芳香剤噴霧



香料(レモン、マツなどの芳香オイル)は、不快な臭気を包みこんで封じ込めます。その効果は一時的ですが、即効性があります。通常、広範囲または悪臭の元に直接噴霧します。

リストアリング

リストアリングは、52種類の芳香物質からなる天然エッセンスをファンを使用して散布する方法です。

天然の活性物質が、多孔性の物質の中に入り込み、悪臭を中和、削減します。この活性物質は無害のため、処理中も室内で作業することが可能です。



シールディング

シールディングは、気密性のあるコーティングによって表面を密封し不快な臭いを迅速かつ持続的に封じ込める方法です。この方法は、汚染が深くまで及んでいる場合、臭気が強い場合、他の脱臭方法が使えない場合、あるいは空調ダクト、つり天井などアクセスが難しい場所などに使用されます。

フィルター除去と吸着

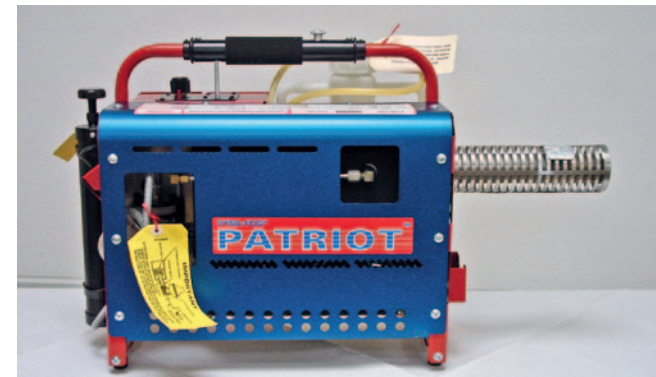
臭気発生源となる分子は、気体として存在するか、微細な塵の粒子に付着しています。その粒子自体を除去するか、その気体を活性炭に吸着させることで、悪臭は大幅に削減可能です。通常、HEPAフィルター(Highly Efficient Particle Air Filter)を、活性炭フィルターとともに用い、大量の空気透過(800m³/h)を実施します。この組み合わせを用いれば空気中のカビの胞子のフィルター除去も可能です。



HEPAフィルターと活性炭フィルターを組み合わせた装置例

フォグging

フォグging(噴霧)は、特殊な芳香剤又は活性物質を空气中に散布する方法です。状況に応じて、ULV噴霧器(ULV=Ultra Low Volume)又は熱噴霧器を選択します。ULV噴霧器が、水状の活性物質溶液を(いわゆるウェットプロセス)大きな水滴で噴霧するのに対して、熱噴霧器は、非常に小さな水滴をドライな霧として発生させます。いずれの場合も活性物質は、臭いの付着した素材の表面にも入り込み、悪臭源になる分子を破壊します。このプロセスは、アクセスが難しい場所にも適用可能です。



家屋、ホール用熱噴霧器例

オゾン分解

これはオゾン発生装置を使用して、空気中の酸素からオゾンを作り出す方法です。悪臭源の分子は、オゾンによって短時間に酸化分解されます。オゾン発生装置は、火災、オイル、カビ、腐敗臭等に広く使用されます。オゾン分解は、特に多孔質の素材(繊維製品、絨毯、皮革など)で効果的です。また酸化分解を引き起こさなかったオゾンは分解して酸素に戻るため、残留することはありません。効果的オゾンの濃度は、TLV値(0.1ppm)超です。高濃度を保つため室内は密閉し、作業中は人や動物の侵入を制限する必要があります。